■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりすること」と「日常の読書の有用性を理解すること」、また「物語の解釈についてその理由を自分なりにまとめて書くこと」に課題がある。
○算数では「道のり、時間、速さ」のように、「示された場面を解釈し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察すること」つまり必要な数値を読み取って言葉や式を用いて表現することに課題がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

○文章から内容を読み解くことはできているが、読み取った内容を踏まえて自分の意見や考えを表現する技術が不十分である。板橋区授業スタンダードのOUTPUTをより充実させ、自分の考えを述べたり伝え合ったりする活動が有用となる。
○文章や図等から読み取ったことをつなぎ合わせて考え、立式することに難しさを感じている児童がいる。算数でもICT機器などを利用して具体的に可視化した情報が得られるようにする等の工夫が有用となる。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

「自分の思い、願い、考えをもち、豊かに表現できる子の育成」
○板橋区授業スタンダードを基軸にした「読み解く力」の育成のため、子どもたちが主体の授業を行う。INPUT、THINK、OUTPUTの学習活動を実施し、必ずOUTPUTではめあてに対する表現活動を行う。
○基礎・基本の徹底をして、子どもたちにとって分かる授業、楽しさを感じられる授業を行う。そのために、モジュールの時間や朝自習、読書などで読み解く力の礎となる語彙を増やす機会とし、授業の仲で活用して定着させるとともに思いや考えを書く活動へと発展させる。
○自分の考えを述べたり伝え合ったりする学習活動により、学習した内容を表現する機会を増やす。そのために一人一台端末、ICT機器の効果的な活用を進める。
○地域と連携した単元の開発をし、主体的で探究学習を行い「地域のよさを語れる子」を育む。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
INPUT段階で明確なめあてを提示し、THINKの段階では自力解決の時間を確保しつつ、ペア学習等による集団解決を行って練り上げをする。	OUTPUTの段階ではめあてに沿った表現活動が行われるようにし、自分の思いや考えを表現する学習を徹底する。	生活科・総合的な学習を中心に、CS委員会、学校支援地域本部、PTA等の地域人材と連携、協力した学習活動を行い、地域愛を醸成する。「地域のよさを語れる子」を育成していく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○子どもがつまづきがどこでどのように生じているかを認識し、「わかる・できる・楽しい授業」を実践していく。 ○学びのエリア研修の機会には、育てたい資質・能力を、生涯にわたって学び変え続ける自己学習力や自己決断力である「読み解く力」について共通見解をもち、小学校、中学校ともに実践していく。 ○校内研究をもとにした授業交流なども行い、互いの授業力向上と一貫教育を進めるための研鑽をする。	○すべての児童・生徒のそれぞれの個性に応じた自己肯定感や自己有用感を育むことができるよう、個に応じた指導を充実させ、地域交流する機会を関連付けた学習を設定していく。 ○SDGsやSTEAM教育の視点を踏まえ、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントの取組を進める。本校は地域に根差した学習を進められる環境にあり、地域人材の活用や地域と連携した学習単元を設定する。板橋区や徳丸地区のよさを語れる子を育成していく。	○一人一台端末などのICT機器の活用を推進し、多様な児童・生徒一人ひとりの課題に応じた学習を設定する。従来型ドリルとデジタルドリルを併用し学習の個性化も推進する。 ○論理的思考育成のため、各学年の段階に応じてプログラミング教育を推進する。 ○端末を使用するルールや個人情報の取扱い等、学校共通の指導ができるようにし、情報モラルについての学習を計画的に行う。